

～5月行事予定～

日	曜日	予定	放鼓	SC	図ボ	放遊
1	金					
2	土	国民の休日				
3	日	憲法記念日				
4	月	みどりの日				
5	火	こどもの日				
6	水	振替休日				
7	木	全校朝会(8:00～) 安全指導 たてわりなし				○
8	金	食育朝会(8:00～) 総合学力調査(2・3年1～2h、4～6年1～4h)				○
9	土	土曜授業② 4h授業 避難訓練				
10	日					
11	月	1年給食始、午後授業始				
12	火					
13	水	6h授業(4～6年) 水曜時程				
14	木	たてわりなし				
15	金					
16	土					
17	日					
18	月					
19	火					
20	水	4h授業 水曜時程 保護者会( )				○
21	木	たてわりなし				○
22	金					○
23	土					
24	日					
25	月					
26	火					
27	水					
28	木	( ) たてわりなし	○			○
29	金			○		○
30	土					
31	日					

新型コロナウイルス感染症予防対策のため  
5月31日まで臨時休校



○5月は、宮塚山への避難訓練を行います。

○年度当初の保護者会が5月20日にあります。

○5月期予定で、学力調査( )を行います。

○この時期は、校内で転居し、住所変更にも、学校へ申請が必要になります。該当される場合は学校へ御一報くださいますよう、よろしくお願いたします。

放鼓…放課後鼓隊  
SC…スクールカウンセラー  
図ボ…図書ボランティア  
放遊…放課後遊び

～各目標～

【生活指導目標】

・きまりをまもって行動しよう

【安全指導目標】

・校内での安全な過ごし方を考えよう

【保健指導目標】

・けがを予防しよう

【給食指導目標】

・給食について知ろう

この行事予定は、現時点でのものです。  
今後変更になる場合がございますので、予め御了承ください。



# 学びの庭

NO.132 5月号  
令和2年5月7日  
新島村立新島小学校  
学校だより



## 「母の日」を想う

副校長 木須 和広

5月に入り、第2月曜日の昨日は「母の日」でした。私が中学校の教員時代は、思春期・反抗期真っ只中の生徒たちに、あえて自分の母親の話をしてきました。「亡くなってからでは親孝行はできないぞ」という私の想いがあるからです。

私の母親と父親は、もうこの世にはいません。母は61歳、父は77歳で亡くなりました。人生80年の時代に60代で亡くなった母親は早すぎた死だったと思います。母親は、私が小学校の低学年の頃から「リウマチ」という病気にかかっていた。父親は製鉄会社に勤め、昼と夜を交互に働くという勤務でした。夜勤と学校の休みが重なった日は、父親が昼間にしっかりと睡眠がとれるように、母親は私と妹を外に連れて行っていました。3年生の頃だったか、私が朝早く起きると、母親が泣いていたのです。その時は、「大丈夫だよ」と私を心配させないように言葉を返してくれましたが、「何か具合いでも悪いのかな」と子供心なりに心配していました。月日が経ち、私が高学年になった頃には、「リウマチ」という病気のことが少しずつ分かってきました。この病気は、関節が腫れて曲がらなくなり、骨が徐々にもろくなっていくのです。特に寒い日や朝は、症状がひどくなります。痛みで包丁が握れない、水道の蛇口をひねることができない時もありました。私は、水が出しやすいように家の水道の蛇口はいつも緩く締めていました。母親がこのような状態だったので、私は、小さいころから母親には心配や苦勞をさせてはいけないと常に思っていました。私は高学年になると、学校代表として市内水泳大会や陸上競技大会に出場することになりました。夏から秋にかけては毎日練習がありました。当時、唯一の習い事が「そろばん」で、私は2歳年下の妹と一緒に通っていました。練習と習い事が重なった時は、母親が、私と妹のそろばんの道具の袋を途中まで持って来てくれました。その頃は、もうブレーキが思うようにはかけられない状態でしたが、何とか自転車に乗って迎えに来てくれました。中学生になると私は陸上競技部に所属し、大会で活躍できるようになってきました。母親は私が出場する大会は、ほとんど応援に駆け付けてくれました。「お母さんにかっこいいところを見せるんだ」と大会は特に意気込んでいました。

その後、亡くなる前の7年間は車椅子で生活することになりました。ちょうど父親が会社を退職した直後からそのような状態になったので、7年間は父親が車を運転し、一緒に病院へリハビリに行っていました。時々私もリハビリに付き添うと、なぜか笑顔でいる両親が羨ましく思ったことがあります。今思うと、夫婦2人だけのいい時間が過ごせたのかなと思う時があります。

私も、2人の子供の親でもあります。子供に母親のような生き様を見せられているかどうかは自信がありません。しかし、どんな困難な時でも、病院でリハビリをしている時の母親の「笑顔」を忘れず、これからの人生を歩んでいきたいと思っています。

このような状況で、子供たちが学校に登校できなくなっています。家で過ごさなければならない状況で、保護者の方々は「仕事」と「子供の教育」とを両立させ、大変な毎日を送られていることと思います。私も一人の親として、皆さんとこの状況を乗り切っていく覚悟でいます。

新島村が「ONE TEAM」となり、力を合わせてこの困難を乗り越えたいと信じています。

## 離任者挨拶



● 新島小学校では、2年間お世話になりました。

● 子供たちの「おいしかったよ!」「また作ってね!」の声はとても励みになりました。また、地域の方々や保護者の皆様にもたくさん支えて頂き、貴重な経験をすることが出来ました。

● 2年間新島で過ごせたことを誇りに思います。大変お世話になりました。ありがとうございました。

明日 茜



● 1年間という短い期間でしたが大変お世話になりました。

● 私は、新小の校歌がとても大好きです。東京のピアノの先生にお願いして、弾いていただいたりしました。自分でも弾いたりしています。(警備の)たけしさんが言うには、昔は一番を男子、二番を女子、三番を混声で歌っていたそうです。新小も、これからそのくらいの子供たちの人数が増えるといいなと思っています。

● ありがとうございました。

● “巖のごとき我らなり”

鳴瀬 康次



## 一人一人に寄り添って ～チャレンジ教室ってどんなところ?～

チャレンジ教室担当 滝澤 雄一郎

チャレンジ教室は、通常の学級に在籍しながら最大週8時間個々の課題解決を目指して教育支援に取り組む場所です。

現在、本校のチャレンジ教室には2～6年生までの児童10名が在籍し、個々の課題【困り感】と向き合いながら日々頑張っています。

では、個々の困り感とはどういったものを指すのでしょうか?

子供(人)にはそれぞれ個性があります。そして、その個性が他の子よりも強く、周りとうまくいかなかったり、周囲の環境に適応できなかったりして困っている子が世の中にはたくさんいます。これを個々の困り感とここでは捉えています。

特別支援教室「チャレンジ」は、そんな子供の困り感(例:「友達とうまく遊べない」「じっと座ってられない」「聞き間違い、聞き逃しが多い」等)に寄り添い、根本的な課題の解決を目指したり、集団生活のための知恵を高めたりしていきます。

特別支援教育は「自転車の乗り方を練習するようなもの」です。その子が補助なしで自転車に乗れるようになるためには何が課題なのか。

- ・補助輪が必要?(両方?片方?)
- ・踏み込みが弱い?
- ・視線が落ちている?
- ・怖がっている? 等々

これらを見極め、適切な支援を行っていくこと。そして最終的に一人で自転車に乗れるようにしていくことを目指します。

また、支援をする場合には、なるべく発達段階の早いうちから取り組むことが大切となります。なぜなら、小さいうちの方が「トレーニングへの抵抗感が少ない」「同世代の子との差が小さい」ため、追い付きやすい、よりよい人間関係を築きやすいからです。とは言え、発達段階の早いうちから困り感を自覚できる子はほとんどいません。困り感を見付け、寄り添ってあげる一番の理解者は保護者の皆さんです。

もし、何か気になることがあれば、まずは気軽に御相談ください。

